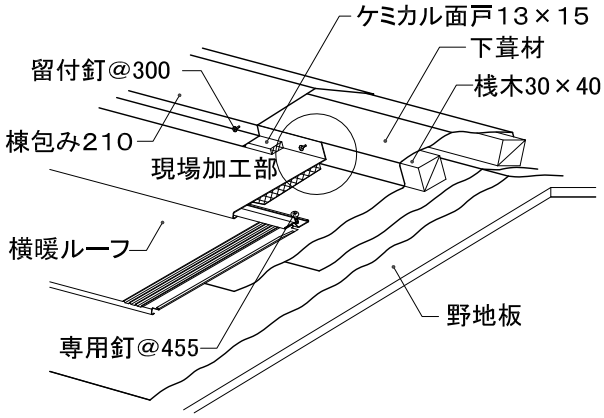
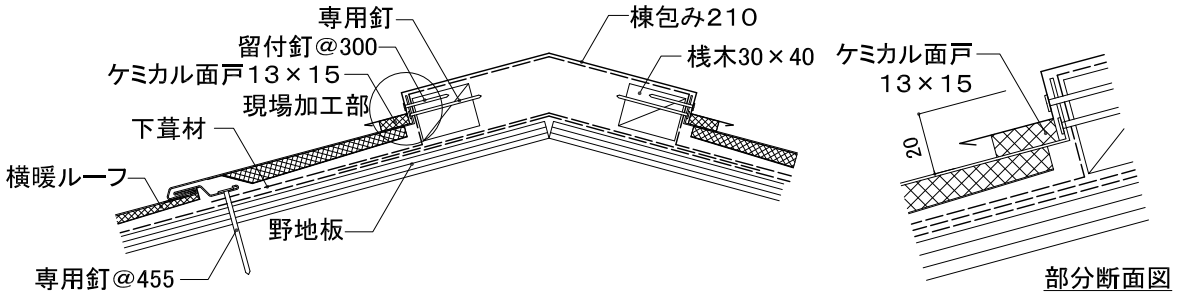
横暖ルーフ

工 法	下 地	構造
新築	耐水合板	木造

5）大棟部　　棟包み210

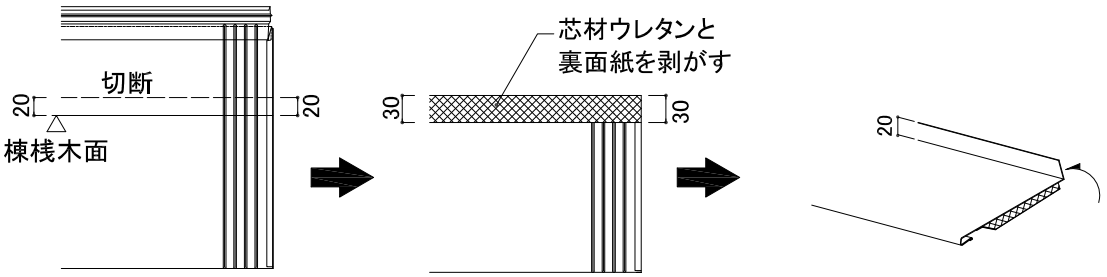
○棟包み210の適用勾配と桟木位置はP254をご参照ください。
○野地板の上に下葺材を張ってください。
○棟部に桟木30㎜×40㎜を外側2ヶ所取り付け、桟木を包むように下葺材を増し張りしてください。
※工事中は棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
○棟部を図のように加工した横暖ルーフ本体を桟木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせてください。棟包み210は、留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜以上）を、300㎜以下の間隔で桟木に留め付けてください。
○けらば部は棟巴を用いて納めてください。





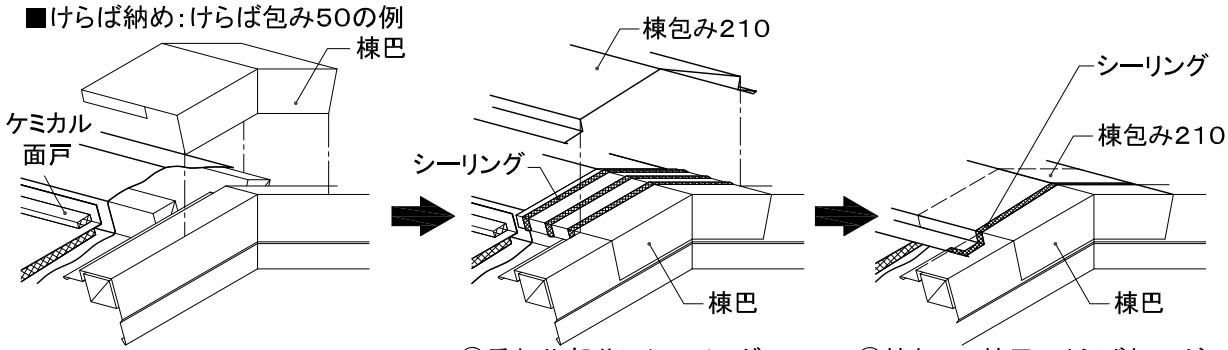
部分断面図

■施工ポイント・現場加工図
○横暖ルーフ本体の大棟部分は図のように加工してください。



①棟桟木面から図の寸法で切断します。
②端部から30㎜の位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がしてください。
③端部から20㎜の位置を折り曲げて立ち上げます。

■けらば納め：けらば包み50の例



①棟巴は屋根勾配に合わせてけらば包み50と桟木の上にかぶせます。
②重ね代部分にシーリングでビードを3本作り棟包みをかぶせます。
③棟包み、棟巴、けらば包みが交わる部分に捨てシーリングを施工してください。